

近藤清石著
山口縣史畧

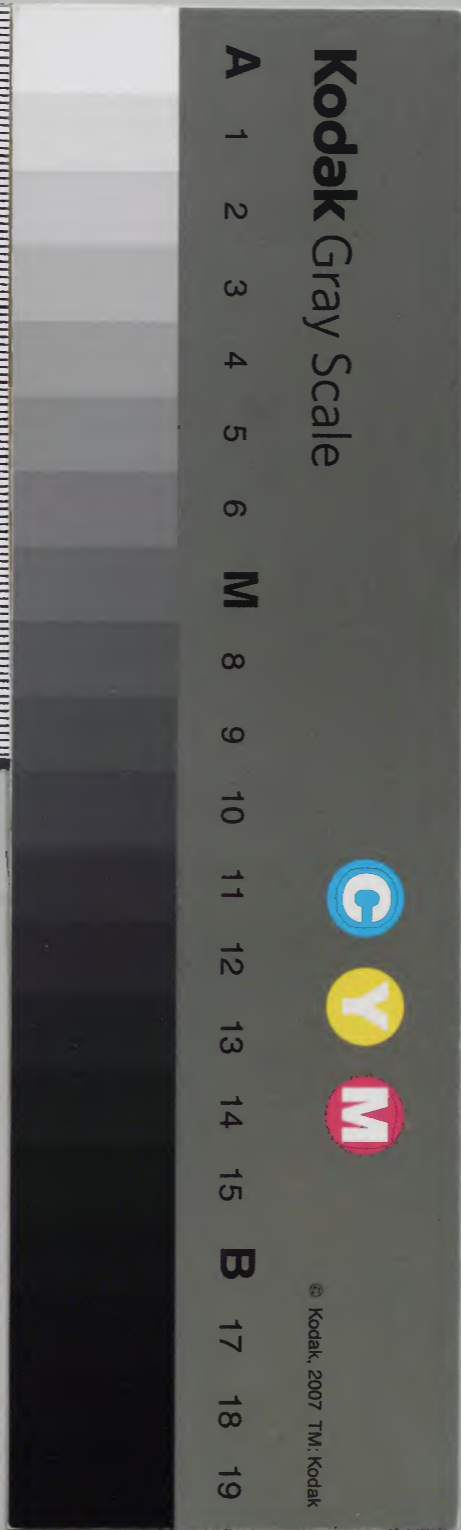
長門國之中
五

農商務省
和圖書
第二九七〇號
共三冊

和書門
八四二七
二二二七
六八五
類號函架冊

四閣文庫

函架	冊	二二二七	六	二二二七	二二二七
二二二架	冊	二二二七	六	二二二七	二二二七
內閣文庫		番號	和	8427	
		冊數		6 (5)	
		函號	140	304	



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

豐浦清末兩藩毛利氏略系

○ 毛利元就 四男

○ 元清

少輔 四郎 治部大輔 伊豫守
從五位下 田原資家嗣 卒于安藝國廣島
備中 少輔 元資家嗣 卒于安藝國廣島
民部 少輔 元資家嗣 卒于安藝國廣島
慶長 二年七月九日 卒于安藝國廣島
四十七歲

○ 秀元

宮松丸 右京大夫 伊豫守
甲斐守 參議 從三位
輝元 養子 閏十月三日 薨于江戶七十
慶安 三年閏十月三日 薨于江戶七十
二歲

○ 光廣

又四郎 和泉守
從五位下 卒于江戶三十八
兼應 二年七月二日 卒于江戶三十八

元知 歲 權三郎 刑部 刑部大輔
 從五位下 兼應二年十月十二日分封清未
 天和三年閏五月十四日卒于江戸
 五十三歲

綱元 右京 甲斐守 侍從
 從五位下 寶永六年三月朔日卒六十歲

元朝 實綱元 男吉元子
 正德三年為宗家吉元養子讓家叔
 父元矩 和仁 八郎 右京

元矩 實綱元 末子 右京
 享保三年三月二十日卒十五歲以

匡廣 十七歲未滿家斷絕 內膳 讚岐守
 初元平 權三郎 甲斐守 從五位下
 享保三年四月十五日移封長府
 享保十四年九月十九日卒五十七歲

師就 初元親就 匡就 百助 主水正
 從五位下 享保十四年四月廿日卒于江戸三十

政苗 初匡平 竹之助 刑部少輔
 讚岐守 從五位下 覺翁 封清未
 享保十四年七月廿六日卒六十六歲

政美 初匡邦 匡訓 寅之進 讚岐守
 從五位下 安永四年七月廿九日家督
 天保三年十月十一日卒七十二歲

博古堂藏

政明

初正明 帶刀
實增山河內守正賢二男
文政元年二月廿九日家督
同六月廿四日卒三十歲

元

初正名 紀七郎 讚岐守
從五位下
實攝田捕津守正敦六男
弘化二年七月廿七日卒五十歲

元

健之助 出雲守
從五位下
實毛利左京亮元運男
嘉永三年正月四日卒

元純

銀三郎 讚岐守
實木下主計頭

匡敬

初元房後重就 岩之允 甲斐守
從五位下
實師就男
寶曆元年四月十二日讓家匡滿襲宗
家宗廣遺跡

匡滿

文之助 能登守
從五位下
明和六年八月十三日卒于江戸二十
二歲

匡芳

初匡豐 政二郎 甲斐守
從五位下
實宗家重就男
寬政四年六月廿二日卒于江戸三十
五歲

元義

初元敬 直次郎 甲斐守
天保十四年四月七日卒五十九歲

○元運

雅之助 左京亮
從五位下
天保十二年九月廿一日家督
嘉永五年閏二月廿七日卒于江戸嘉

○元周

萬次郎 左京亮
從五位下
實元義男元寬子

○元敏

宗五郎
明治九年三月五日家督

山口縣史畧卷第五

山口縣士族 近藤清石著

長門國之中

紀元二千五百三年

正親町天皇永祿五年九月十九日隆元本國

守護職ヲ兼補ス

江氏家譜
古文書

紀元二千五百三年

六年五月十六日隆元更ニ本國并ニ周防

守護職ニ補ス是ヨリ先キ既ニ守護ニ補

ストイハ氏防長二國ヲ豊後ノ大友氏ニ

賜ハルノ浮説アルヲ以テ更ニ此命アリ

山口縣史畧

卷之五

博古堂藏

紀元二千五百九年

ト云フ。上同

十二年五月元就長府ニ出陣ス。大友義鎮

盛約ニ背キ。豐前國門司城ヲ攻ムルヲ以

テナリ。十二月廿三日。長府ヲ發シテ安藝

ニ還ル。古文書

紀元二千五百廿一年

元龜二年四月二日。豐後兵赤間關ヲ來リ

掠ム。擊テ之ヲ却ソク。上同

紀元二千五百廿六年

後陽成天皇天正十四年。豐臣秀吉將ニ薩摩

ヲ征セントス。輝元ヲ以テ前隊トス。八月。

紀元二千五百廿七年

輝元長府ニ出軍シ。叔父吉川元春。小早川

隆景及ヒ從弟吉川元長ヲ九州ニ差遣ス。

元春十一月十五日。豐前ニ卒ス。元長翌十

五年六月五日日向ニ卒ス。弟經言其遺跡

ヲ襲ク。後廣豐臣秀吉譜江氏

紀元二千五百廿八年

十五年二月。秀吉自ラ薩摩ヲ討ツ。七月。凱

旋ス。輝元安藝ニ還ル。豐臣秀吉譜古文書

十六年三月。客年冬肥後亂ル。輝元豐前小

倉ニ出陣ス。是ニ至テ亂平キシヲ以テ小

倉ヨリ長府ニ至ル。尋テ安藝ニ還ル。上同

博古堂藏

紀元千二百五十年

十八年。輝元豐臣秀吉ノ命ヲ以テ分國ヲ
檢地ス。本國七ツ半成ニテ。十三萬三千七

百九十石ナリ。古文書

紀元千二百五十年

文祿元年。秀吉朝鮮ヲ征ス。肥前名護屋ニ
出次ス。七月。大坂ニ航歸ス。舟又與二兵衛
逆ヲ謀リ。故ヲニ赤間關海ニテ其船ヲ暗
礁ニ觸ル。秀吉殆溺ル。是時。穗田元清ノ男
秀元。秀吉ニ謁セントシテ。赤間關ニ在リ。
飛舸之ヲ救フ。秀吉與二兵衛ヲ誅ス。是ヨ

紀元千二百五十年

リ茲ノ礁ヲ字シテ與二兵衛礁ト云フ。同上

及江氏家譜

慶長五年。輝元關原ノ事ヲ以テ封土本國
及ヒ周防ニ臧ル。當時本國石高十三萬四
千五十九石九斗九升壹合ナリ。内豐田豐
東豐西及ヒ厚狹四郡ノ内ニテ。三萬六千
二百石ヲ割テ。秀元ニ與フ。秀元始メ周防
吉敷郡ヲ領ス。上宇野令長山ニ城ク。成ル
ニ及ハスシテ此ノ事アリ。長府ノ串崎ノ

山形縣史
卷之五
三

紀元二千五百十三年

古城址ニ陣屋ヲ營造シテ之ニ移ル。同及上

八、帳地輝元山口ヨリ阿武郡萩ニ來リ城地

ヲ指月山ニ相シ二宮就辰。信濃守佐波某。善内

三浦元澄。内左衛門尉佐竹元真。三郎右衛門尉井上元

重。五郎右衛門尉三上元友。平兵衛尉ヲ以テ指月城普

請奉行トス。三浦譜録井上譜録

紀元二千五百十四年

九年十一月指月山ノ牙城成ル。十一日輝元山口ヨリ之ニ移ル。江氏家譜

紀元二千五百十五年

十年四月輝元上洛ス。五月至ル。新撰雜彙古文書

七月二日熊谷元直。豐前守并ニ其女婿天野

元信。五郎右衛門尉及ヒ中原某。善兵衛尉三輪某。八郎兵衛尉

カ居室ヲ圍ンテ之ヲ誅シ。當時コレヲ御討果ト称ス天

野元信ハ山口ニテ其子元直カ一族熊谷

元實。與右衛門尉同元吉。太即右衛門尉元信カ一族天

野元因。勘左衛門尉同元重。彦左衛門尉以上四人ハ後ニ罪ヲ宥メ

賜テ祿ヲ及ヒ湯某。二郎右衛門牧野某。次郎右衛門カ

籍ヲ除キ國外ニ放ツ。是事タル今春指月

山口縣史略 卷之五 四 博古堂藏

城ノ二塚ヲ築クニ當リ。家臣等助役ス。益田元祥頭玄蕃同景祥修理亮カ奴僕熊谷元直一カ受場ノ石ヲ竊取ス。天野元信之ヲ捕ヘ。益田カ家人栗山某三郎右衛門ニ附シ。前二日ヨリ竊取スル所合數二千百荷ヲ償ハシム。栗山曰ク。當日ノ物ハ償フヘシ。前日ノ物ハ確證アラサレハ償ヒカタシト。是時穴道政慶五郎兵衛尉穴戸善左衛門尉等停調シテ千五百荷ヲ償ハシメントス。元直等

聽カス。元祥父子彼ノ僕ヲ誅シ。其首ヲ元直等ニ檢セン。了ラ乞ヒ。且曰ク。我ニ附スルノ盜既ニ其罪ニ處シタレハ。石ハ償却スヘキ理ナシ。此餘ハ上裁ヲ仰カンノミト。是ニ於テ天野元信。熊谷元實及ヒ中原三輪。牧野。佐波善内等連署ノ訴狀ヲ上ル。コレヨリ事結レテ解ケス。元直夫妻佐波氏常陸介ノ隆秀女及ヒ元信。閔閔ヲ憑ミ。是ヨリ先キ屢輝元ニ犯觸ス。輝元之ヲ啣ミ。遂ニ此舉ニ

山形縣史
卷之五
五
博古堂藏

及へリ。茲日佐波善内元直力宅ニ在リテ
害セラル。獨リ元直力嫡孫元貞二郎穂田

元清ノ女ノ出ナルヲ以テ死ヲ免カル秀元

ニ仕フ。後本藩ニ歸ル。古文書。熊谷家譜。天野家譜。天野家記。福原家譜。井上家譜。河

野家譜。山縣家譜。

紀元二百六十年

十一年。指月城内ニ元就ノ香花所洞春寺

ヲ建ツ。由來書故事年表

紀元二百七十年

十二年閏四月。輝元越前ニ如キ。中納言秀

康ノ喪ヲ吊ス。五月。越前ヨリ至ル。押並年表

紀元二百八十年

十三年九月十三日。徳川氏松平ノ稱號ヲ

輝元父子ニ與フ。同上。及接幕紀事。

紀元二百九十年

十五年。是ヨリ先キ十二年ニ起リ三井元

信但馬守蔵田元連與三兵衛尉ヲシテ防長兩國

ノ地ヲ檢セシム。コヽニ至テ成ル。現檢高

五十三萬九千二百八十六石七斗八升五

合ニテ。本國ヲ二十四萬三千二百四十六

石六升七合トス。内五萬八千十二石十一本

石ト毛利秀元ノ領地ナリ。檢地帳。三井家譜。蔵田家譜。

六

博古堂蔵

紀二千五百七十年

十六年十二月廿六日秀就始ノテ江戸ヨ
リ至ル江氏家譜

紀二千五百七十年

後水尾天皇慶長十七年十二月秀就江戸ニ

赴ク柳並年表

紀二千五百七十年

十八年是ヨリ先キ現檢高ヲ幕老本多正

信佐渡守ニ告ク正信曰ク增高甚多シ恐ラ

クハ石役ニ堪カタカラシ幸ヒ頃隣國福

島正則左衛門大夫領内ヲ再檢セリ之ニ准ス

ルニ如カスト因テ備藝ノ檢高ニ照シ魚

重元續和泉守ニ命シテ計筭セシメコハニ

至テ幕府ニ上申ス兩國ノ高ヲ三十六萬

九千四百十壹石三斗壹升五合トシ内毛

利秀元ノ采地ヲ四萬七千八百二石六斗

四合毛利就隆ノ采地ヲ二萬五千百五十

石吉川廣家ノ采地ヲ三萬七千百二十九

石二斗三升トス届扣

十九年徳川氏大坂城ヲ攻ム十一月十一

日輝元出軍之ニ會ス十二月和議成テ兵

紀二千五百七十年

山形縣史 卷之五 七 博古堂藏

紀元二百十五年

庫ヨリ至ル

新撰 雜彙

元和元年正月客年秀就秀元德川氏ニ從

フテ大坂ニ下ルコヽニ至テ大坂ヨリ至

ル根人帳江氏家譜四月德川氏再々大坂城ヲ攻

ム輝元ニ出軍セシム輝元先鋒ヲ秀元ニ

命ス五月一日秀就出軍大坂ニ赴ク古文書

閏六月三井就延善兵ニ命シテ永否

川成ヲ檢ス三井家譜七月秀就大坂ヨリ至ル

十月十九日粟屋元豐圖書所領美禰郡

岩永村ニ自裁ス事周防ノ家僕二人

右衛門飯田之ニ殉ス粟屋家譜風十一月

秀就江戸ニ赴ク故事年表

紀元二百十六年

二年秋風雨洪水稼田ヲ損ス三井元信同

就延志道保久五郎左ニ命シテ之ヲ檢ス

三井家譜是年阿武川ノ下流ニ新川ヲ穿テ之

ニ通ス氏ト椿郷金谷ヨリモシリ渡邊

紀元二百十七年

三年九月秀就江戸ヨリ至ル江氏家譜

紀元二百十八年

四年三月五日秀就江戸ニ赴ク故事年表五月

山口縣史 卷之五 博古堂藏

三日雲谷等顔汝ス。七十等顔ハ肥前人原
 治兵衛直治ト稱セリ。初ノ畫ヲ狩野松榮
 ニ學ヒ其筆法ヲ得ル。後釋揚門本國ノ人ト云フ。傳
詳ナラス。按ニ齋藤等順カ父等閑名ヲ永
門ト云フ。コレヲ訛ルカ如シ等順周防部
ユ。見ニ從ヒ。雪舟ノ法ヲ得タリ。慶長年中
 能畫ヲ以テ輝元ニ仕フ。輝元大内家傳來
 ノ雪舟ノ軸本ヲ貸シ臨摹ヤシム。甚夕意
 ニ愜フ。是ニ於テ雪舟ノ舊址雲谷菴ノ地
 ヲ賜フ。因テ剃髮シテ雲谷等顔ト改ム。法

橋ニ叙セララル。子等益孫等與等爾等哲等
 璠相繼テ聲譽アリ。分レテ數家トナル。又
 畫脉ヲ承ケテ家ヲ起ス者ヲ三谷等宿。仁右
衛門栗栖等侷。六兵衛後雲津森等為。茂兵衛波
 多野等有。賢齋永富等珍。左兵衛トス。原家譜繁
谷家譜三谷家譜津森家譜波八月廿五日。
 輝元吉見廣長。大藏ノ萩平安古ノ邸ヲ圍
 ミテ。廣長夫妻ヲ誅ス。今ノ平安古ヨシ
ニテ。ヨシハ記見。廣長初ノ長二郎廣行
ノ轉訛ナリト云フ。

九
 博古堂藏

ト稱ス。モトノ石見國三本松ノ城主吉見
 正頼ノ男廣頼三河守ノ二男ナリ。征韓ノ役
 兄元頼二郎兵衛尉ト從軍ス。元頼軍中ニ病没
 シテ其後ヲ承ケ。壹萬餘石ヲ領ス。慶長九
 年十二月出奔ス。十八年歸國セリ。輝元正
 頼以來ノ功勞ヲ録シ。出奔ノ罪ヲ宥メテ
 扶持ス。コヽニ至テ俄ニ誅セララル。時ニ年
 三十八歳ナリ。或云フ。廣長ノ妻妾相妬ム。妻其妾ヲ毒セント欲シテ。砥石ヲ買フ。廣長之ヲ知ラス。輝元ヲ招飲セント請フ。藥鋪之ヲ聞テ。砥石ヲ賣ルヲ

紀二千五百十九年

容訴ス。是ニ於テ輝元廣長ノ已毛利家譜
ヲ毒スルトシテ之ニ及ヘリト。古文書古
 碑老口
 五年幕府福島正則ヲ放テ。其城地ヲ收ム。
 隣國諸侯ニ令シテ兵ヲ國境ニ出シ。不虞
 ニ備ヘシム。輝元毛利元俱山城守益田元堯
越中守ニ兵ヲ附シテ岩國ニ出ス。秀元就隆
 出軍之ニ會ス。是時秀就將軍秀忠ノ上洛
 ニ隨フテ京師ニ在リ。將軍歸國ヲ命ス。五
 月六日京師ヨリ岩國ニ至ル。七月上洛ス。

十

梅古堂藏

紀元二百八十年

古文書廣島事八月幕使土井利勝大炊頭蒞ニ來ル。

山崎漫筆輝元上洛ス。九月八日京師ヨリ山口

ニ至ル。尋テ萩ニ還ル。江氏家譜是月秀就

江戸ヨリ至ル。江氏家譜

六年四月秀就江戸ニ赴ク。五月防長

洪水山崎漫筆八月渡邊廣太郎左衛門三井就延ニ

命シテ川成崩入ヲ檢ス。三井家譜

七年四月秀就江戸ヨリ至ル。是年掟

書ヲ頒ツ。大記

紀元二百八十年

紀元二百八十年

八年三月秀就江戸ニ赴ク。無盡集是年阿武

川ヲ浚ヘ。萩城三塚ノ東面ニ溝池ヲ穿ツ。

柿並年表幕府最上氏源五郎ヲ改易シ。其家老氏

家親定左近ヲ秀就ニ預ク。親定寛永十五年

其子茂十郎新撰雜彙福間

九年正月明人陳元贊萩ニ來リ。輝元ニ謁

シ。長門國都誌ヲ編ス。長門國都誌序九月十日是

ヨリ先キ秀就將軍家光ノ上洛ニ隨ヒコ

コニ至テ京師ヨリ還ル。無盡集是月輝元防

紀元二百八十年

長兩國ノ政事ヲ秀元ニ依頼シ、萩城ノ四

本松邸ニ隱居ス。無尽集大記十二月、秀元江戸

ヨリ至ル。大記

寛永元年、秀就江戸ニ赴ク。

二年四月廿七日、輝元薨ス。天樹院堀内平安

寺ニ火葬ス。廢養學院舊地十リ、後四本松

テ之ニ五月、秀就江戸ヨリ至ル。

六月二日、長井元房治郎左衛門尉輝元ニ殉ス。江氏

家譜幕使柳原平八郎來弔ス。江氏七月、

紀元二百八十四年

紀元二百八十五年

秀元宗藩諸士ノ采地ヲ改定シ、熊野某藤兵

衛ニ命シテ兩國ノ地ヲ檢ス。現檢高五ツ

成ヲ以テ、六十五萬八千二百九十九石三

斗三升壹合ニテ、本國二十八萬五千二百

五十八石四斗四升九合ナリ。役人帳、檢地帳、熊野家譜

郡方十一月、秀就江戸ニ赴ク。無尽集

三年十月、是ヨリ先キ秀就將軍ノ上洛ニ

豫參シ、左馬寮ノ御馬ヲ賜フコ、ニ至テ

京師ヨリ還ル。江戸家譜

士

博古堂藏

紀元二百八十六年

紀元二百十七年

紀元二百十八年

紀元二百十九年

四年二月秀就江戸ニ赴ク。故事年表

五年十一月秀就江戸ヨリ至ル。同上

六年二月阿武郡田萬村水谷浦ニ死鯨漂

著ス石見ノ飯井浦ヨリ之ヲ奪フコヽニ

於テ國界ノ論起ル我ヨリ三浦就房筑前守

村井某傳左衛門龜井氏ヨリ勝田新之允佐相

與兵衛出張シ佛坂ニテ兩村ノ莊屋對決

ス飯井ノ莊屋ハ國界ヲ黑崎ト云フ。黑崎ハ水

谷ノ西田萬ノ莊屋古證文ヲ以テ國界ハ

多々良崎ナルヲ證明ス飯井ノ莊屋屈服

シ國界決定ス。大記録三浦家譜閏二月廿三日秀

就將軍ノ上洛スルヲ以テ東上ス是時將

軍庖瘡ヲ病テ止ム是ニ於テ大坂ヨリ還

ル十一月東上ス。故事年表

紀元二百十九年

明正天皇寛永八年十月五日秀元國政ヲ秀

就ニ還ス。故事年表

九年三月秀就江戸ヨリ至ル九月十六日

江戸ニ赴ク。故事年表

紀二千九百九十五年

十年切支丹宗ノ徒ヲ檢ス阿武郡福井村
明木村大津郡井上村及ヒ吉敷郡山口ニ
其徒アリ索捕シテ火刑ニ處ス有故雜文
渡邊年表

紀二千九百九十四年

十一年四月秀就江戸ヨリ至ル江氏家譜
廿九
日萩古萩町火アリ百卅郡方年表
渡邊年表六月廿
日秀就將軍ノ上浴スルヲ以テ東上ス江氏

家譜柿並年表是ヨリ先キ白雉二羽及ヒ斑毛鶉
ヲ本國ニ獲ル之ヲ將軍ニ獻ス渡邊年表閏七
月秀就京師ヨリ至ル江氏家譜十一月一日萩

紀二千九百九十五年

長壽寺清光寺今ノ准圓寺火ク郡方年表
故事年表

十二年正月十九日秀就江戸ニ赴ク柿並年表
渡邊年表六月幕府諸族ノ參勤交代法ヲ定ム

新撰以下參勤交代ノ事畧シテ書セス其
雜彙事故アリテ滯府シ或ハ參勤ノ期ニ

違フ者ハ此
例ニアラス七月廿五日大風洪水指月城

破損ス小箱舊
記抄八月十三日兩國內大風秋

稼ヲ損ス渡邊年表

十三年十一月是ヨリ先キ幕府古錢ノ通
用ヲ停ムコ、ニ至テ新錢鑄造ヲ命ス小箱

紀二千九百九十五年

山口縣史 卷之五
十四
博古堂藏

紀三千五百九十八年

抄舊記

十四年正月美禰郡赤村ニ新錢ヲ造ル田

邊某市即左衛門佐々木某四即兵衛叔某十左衛門ヲ以

テ鑄錢奉行トス兼書十一月肥前島原ノ

民亂ヲ作ス幕府島原城主松倉三彌ヲ秀

就ニ預ク之ヲ平安寺ニ置ク柿並年表兵

ヲ島原ニ出ス島原事乃美家譜國司家譜藤井家譜志賀家譜橫地家譜

譜是年幕府江戸城ノ天守閣ヲ修ス秀就

巨石四十枚長壹丈餘尺ヲ獻ス渡邊年表

紀三千五百九十八年

十五年二月四日秀就江戸ヨリ至ル幕府

島原ノ事ヲ以テ西國諸侯ヲ國ニ就カシ

ムルヲ以テナリ故事年表廿八日島原賊

平ク島原事五月廿七日松倉三彌ヲ江戸ニ

送致ス福間帳是月幕令ヲ以テ兩國內ノ古

城址ノ石垣ヲ壞ツ有故雜文六月國內ヲ搜索

シ切支丹宗徒ヲ捕フ同上諸士ニ切支丹宗

ヲ信スヘカラサルノ誓書ヲ上ラシム其

料紙城内鎮坐宮崎八幡宮春日神社ノ午

王寶印紙ヲ用井シノ。兩社々人ニ寶印紙一枚錢二文ヲ以テ賣ルヘキヲ命ス。四社略

系是年兩國內ノ耕牛多ク斃ル。渡邊年表

紀元二千九十九年

十六年阿武川ニ橋ヲ架ス。同上

紀元二千三百年

十七年二月廿二日大津郡深川村大寧寺

火ク。寺社證文十一月廿二日幕府新錢鑄造ヲ

停ム。渡邊年表是年兩國內ノ耕牛多ク斃ル。故實

萃拔十八年。総ラス。同上

紀元二千三百年

紀元二千三百年

十九年十二月廿五日幕命ヲ以テ兩國內

ノ民百七十八人。男九十四人。女八十四人。ヲ肥前天草

島原ニ移ス。小箱舊記抄。新撰雜彙。是年饑工。故實。萃拔。

紀元二千三百年

二十年所務見取ヲ廢シ春定法ヲ施行ス。

一切伺書。兒玉家譜。二月廿一日陶工坂高麗左衛門

没ス。五十八歳。高麗左衛門初名助八朝鮮人ナ

リ。兄ヲ李勺光ト云フ。文祿ノ役我師ノ虜

スル所トナリテ大坂ニ來ル。豐臣太閤之

ヲ輝元ニ預ク。李勺光陶器ヲ造ルニ巧ナ

山形縣史 卷之五 十六 博古堂藏

紀元千三百五年

リ。因テ椿郷松本ニ宅地ヲ與ヘ。鼓嶽ノ樹
 木ヲ蜜新ニ充テ。磁器ヲ作ラシム。是ヨリ
 鼓嶽ヲ唐人山ト稱ス。後輝元ノ命ヲ以テ
 弟ヲ本國ヨリ招ク。即チ助八ナリ。寛永二
 年秀就今ノ名ヲ賜フ。コヽニ至テ終ル。李
 光ノ没年詳ナラス。山村家譜
 子孫山村ト稱ス。坂家譜

後光明天皇正保二年七月廿七日。大風翌日
 ニ至ル。此日幕府長崎上使新見某七右衛門ノ
 船厚東郡藤曲ノ海上ニテ破損ス。福原元

俊左近ノ家僕及ヒ浦人等之ヲ救フテ恙
 ナキヲ得ル。後日幕府銀子百枚ヲ贈リ。之
 ヲ勞ス。録聞九月十七日。萩古萩居住岩倉
 某八郎兵衛發狂シ。隣家野山某六右衛門カ宅ニ抵
 リ。野山カ家族ヲ殺ス。是夜野山他出シテ
 家ニ在ラス。僕變ヲ野山カ武藝ノ弟子木
 梨就時喜左衛門ニ報ス。就時之ニ趨ル。時ニ警
 卒野山カ宅ヲ圍ミ。人ノ出入ヲ禁ス。就時
 隣家ヨリ牆ヲ越テ入り。岩倉ヲ斫ル。三人

山形県史

者ノ食祿ヲ沒收ス。野山岩倉祿二百石。木梨ハ三百石ニテ共ニ

物頭タリ。就時後ニ野山岩倉カ宅。後日獄

収録舊地ヲ賜フ。沒収家筋帳。木梨家譜

紀三千八百八年 慶安元年正月十八日大雪十九日ニ至ル。

深サ三尺ニ及フ。親原閏六月再々古城址

ノ石垣ヲ壞ツ。有故

紀三千三百九年 二年四月。萩田中一本松ノ亨徳寺火ク。應

三年今ノ地ニ再建ス。今ノ田中神社ハ本寺ノ鎮守社ノ遺レルナリ。年表

紀三千三百三年 三年七月廿五日。萩古萩火アリ。延テ濱崎

ニ及フ。親原八月十一日。是ヨリ先キ元年

月幕府兩國ノ地圖ヲ作ラシム。コヽニ至

テ上ル。新撰十六日夜東風海水暴漲ス。原

書閏十月三日。毛利秀元江戸ニ薨ス。三末

紀三千三百二年 四年正月五日。秀就卒ス。大照六月小

川就克。兵部信常就實。右京山名就行。内膳

祖式就好。主計村上就正。監物之ニ殉ス。江氏家

信常山名祖式村上家譜九日。梨羽就云。頼母殉死ス。家

臣山本氏忠。又兵衛之ニ殉セリ。是ヨリ先キ

就云公務ノ果サ、ルアリテ、之ヲ辨スル
 カ爲ニ後ル。藩士及ヒ高賈ニ至ルマテ就
 云ノ死ヲ惜ミ、連名書ヲ以テ之ヲ止ム。就
 云聴カス。遂ニ死ス。古文書江氏家譜 十二日。
 又保宗五郎左衛門 殉死ス。是ヨリ先キ宗又
 故アリテ流浪シ、石見ニ在リ。訃ヲ聴テ還
 リ殉死セン。一ヲ願ヒ、明圓寺町ニ自盡ス。
江氏家譜 二月二十日。網廣嗣ク。江氏家譜 所務
 代官十八員ヲ置キ、治處ヲ分チテ管理セ

シム。コレヲ某宰判ト名ツク。曰ク。當島。阿武
 内ノ曰ク。濱崎。同上 曰ク。奥阿武。同上 曰ク。前大
 津。大津郡及ヒ 曰ク。先大津。同上 曰ク。美禰。美禰郡
 郡曰ク。吉田。厚狹郡 曰ク。船木。厚東郡 曰ク。山口。
 吉敷郡及ヒ。曰ク。小郡。吉敷郡 曰ク。東佐波
 阿武郡ノ内。曰ク。花岡。都濃郡及ヒ
 佐波郡ノ内。曰ク。徳地。同上 曰ク。大島。大島郡 曰ク。
 曰ク。上關。熊毛郡及ヒ 曰ク。熊毛。熊毛郡 曰ク。山
 玖珂熊毛。玖珂郡熊毛内 曰ク。熊毛。熊毛郡 曰ク。山
 代。玖珂郡内 十リ。役人帳兒 十二月廿七日幕

山形縣史略 卷之五 十九 博古堂藏

府國目付齋藤左源太蒞ニ來ル渡邊是年
山田清太夫始テ足輕以下ノ者木履ヲ穿ヲ禁ス故事

紀元三百十二年 承應元年七月幕府國目付江戸ニ還ル江氏

家譜十一月郡奉行ヲ巡回セシメ箇條書ヲ
頒ツ大記

紀元三百十三年 二年三月幕府國目付石川弥左衛門蒞ニ

來ル江氏家譜八月五日大風暴雨指月城破損
シ兩國内ノ人家多ク倒ル渡邊廿六日國

紀元三百十四年 目付江戸ニ還ル江氏家譜十月十二日秀元ノ

子毛利光廣ノ遺跡ヲ分チ四萬石餘ヲ其
嫡男綱元ニ一萬石ヲ光廣ノ弟元知ニ領

セシム元知清末村ニ居ル系圖三十一月
吏ヲ汎遣シテ風雨ノ損害ヲ檢ス大記
三年三月十六日蒞惠比須町火アリ

惠比須社々傳六月幕府國目付能勢小十郎水蒞
ニ來ル江氏家譜十一月廿二日蒞城内滿願寺
三摩地院火ク大記十二月國目付江戸ニ

山形縣史 卷之五 二十 博古堂藏

還ル江氏家譜

紀元二千三百十五年

後西院天皇明曆元年幕府國目付石川彌左衛門石丸

石見萩ニ來ル故事年表

紀元二千三百十六年

二年正月廿三日赤氣天ニ亘ル郡方年表三月

廿八日大津郡ニ死鯨漂著ス分附法ヲ定

ム蔵入ノ地ニ漂著スルニ分ヲ收メ一分ヲ浦人ニ與ヘ給領地ニ漂著スル一分

ヲ上納セシメ一分ハ給主ニ一分ハ浦人ニ與フ村里ヨリ浦人ニ助力スレハ浦人

ノ取分ツ大記八月大津郡大風上同

三年九月道路ヲ修シ其幅ヲ二間トス上同

十一月吏ヲ泐遣シ各宰判ノ穀倉ヲ檢ス

上同是年量ヲ改定ス上同

紀元二千三百十八年

萬治元年二月十五日渡邊宣吉之父仇陶

工山村松菴作之進朝鮮人李夕光ノ子ヲ萩法花寺裏

門前ニ斫殺ス宣父ヲ四郎左衛門常ト云

フ寛永十八年十一月法花寺ニ於テ松菴

ニ傷ラレテ死ス宣時ニ年甫二歳叔父俊

増菴宣カ成長ヲ俟テ父仇ヲ報セシメント

欲シ宣ヲ山口ニ匿シ自己ハ醫ヲ以テ安

山形縣史卷之五 廿 博古堂藏

紀二千三百九年

藝ニ客寓ス。茲年常カ十七回ノ忌辰ニ當ルヲ以テ安藝ヨリ還リ。宜ヲ援ケテ松菴カ寺門ヲ出ルヲ要シテ宿志ヲ達セリ。大記

録渡邊 閏十二月。米價騰貴セシヲ以テ。和家譜

市貳石三斗五升ニ定メ。町年寄役ニ米ヲ下附シテ。貧窶ノ小民ニ賣與ヘシム。大記

二年。厚狹郡植生村毎歲蝗害アリ。大唐米ヲ種セン。丁ヲ願フ。之ヲ許ス。上同

三月。郡奉行ヲ巡回セシム。上同

十一日。萩田町火アリ。

紀二千三百二十年

百九十九 戸寺五字。上同

四月。米價騰貴ヲ以テ雇夫ノ賃錢ヲ改メ。雇夫鎌ノミヲ持參スル日別銀六分。鋤畚鉞ヲ持參スル銀七分トス。瓦葺夫ハ往年以來銀八分ナリシヲ。銀六分米壹升トス。上同

八月。旱魃。大豆皆無。上同

三年三月八日。萩城三郭内火アリ。毛利丹波邸失

火延燒 九月十四日。制法三十三箇条ヲ頒ツ。每歲正月十一日之ヲ讀知セシム。上同

寛文元年正月。兩國南邊ノ道路橋梁ヲ修

山形縣史
卷之五
十一
古堂

理ス。上同八月、萩及ヒ山口三田尻ニテ諸士ノ別邸ノ山邊ニ在ルヲ收メテ立山トス。上同閏八月、夷ヲ汎遣シテ開作地ヲ檢ス。上同九月、萩ニ金銀判座ヲ置ク。上同是年、始テ濱崎宰判濱崎町鎮坐住吉神社ノ祭禮ヲ修ス。郡方大津郡通浦ノ小童八人、淺田山ニテ白猿ヲ捕フ。萩ニ進呈ス。新錢二貫文ヲ小童ニ與フ。時ニ綱廣江戸ニ在ルヲ以テ之ヲ江戸ニ送致ス。明年綱廣携歸シテ淺田山ニ放ツ。大記

二年三月廿日、更テ春定并ニ檢見法ヲ施行ス。上同七月廿一日、長府火アリ。三百古事是年、阿武郡鶴江臺ニ燈明堂ヲ建ツ。邊渡

靈元天皇寬文三年正月廿八日、萩城三墾内火アリ。十八戸三月二日、東條就類九郎門ニ加祿ス。原祿四十石就類寬永十九年右衛門小郡宰判所務代官トナル。意ヲ開拓ニ注シ、萬治二年ニ至リ四千三百十石五斗九

山形縣史卷之五
廿三
世古堂藏

紀元二千二百廿四年

升ノ新田ヲ開キ長澤ノ池ヲ掘リ其他小
 郡嘉川白松秋穂陶等ノ諸村ニ池溝ヲ起
 シ旱損ノ患ナカラシムルヲ以テナリ土
餘澤ヲ仰キ近歲祠ヲ長澤奉書東夏早
ニ創立シ就類ノ靈ヲ祭ル條家譜 魃
 近村多クシイト云フ小獸ヲ獲ル獺
 ノ種類ニテサ、獺ト云フ獸ナリ蓋シ水
ニ渴シテ村里ニ出シナラント云フ故實
拔萃 四年三月幕府朱印書ヲ改ムコ、ニ於テ
 豐田豐東豐西ノ三郡ヲ豐浦郡ニ厚東厚

紀元二千二百廿五年

西厚狹氏ノ二郡ヲ厚狹郡ニ復シ大津郡
云フノ見島郷ヲ割テ見島郡ヲ立テ濱崎宰判
ノ丞管トス村寛文郷八月六日萩洪水指月
 城破損ス兵戸
 五年二國內ノ士民傳來ノ古證文ヲ檢ス
三藩及岩國故事年表
領ヲ除ク渡邊年表 六年是ヨリ先キ大津郡向津具下村ノ小
 田ノ地峽ヲ中斷シ海路ヲ便ニセントス
 成ラスコ、ニ至テ廢ス故事
年表

紀元二千二百廿六年

廿四
 博古堂藏

紀二千三百廿七年

七年二月十一日。萩城妙玖寺搯火ク。郡方年表

七月。幕府巡見使。市橋三四郎。稻葉清左衛門。德永頼母。萩ニ

來ル。大記八月。海上見渡使。高林又兵衛。向井八郎兵衛。

來ル。郡方年表

八年二月。厚狹郡高泊ニ開作ス。三

月廿九日。榎本就時遠没ス。就時ハ從五位

下元吉中務大輔ノ三男ナリ。元吉嫡男ヲ元忠

ト云フ。父ニ先タナテ没ス。其子幼ナルヲ

以テ父ニ請ヒ就時ヲ立テシム。就時年甫

紀二千三百廿八年

十八組頭トナル。寛永島原ノ役之ニ使ス

後寺社勘定旗槍母衣等ノ奉行。及ヒ使番

ヲ支配ス。慶安四年秀就ノ逝スル。就時ニ

命シ綱廣ニ遺言ヲ傳フ。因テ東上シテ還

ル。幾ハクナラス綱廣就時ヲ召シテ目代

役トシ。目付ヲ就時ノ組ニ附ス。明曆三年

五月當職ニ擢ラル。七年ヲ闕シテ寛文二

年二月病ヲ以テ職ヲ辭ス。綱廣之ヲ允シ

テ。加判役トス。居ルヲ若干年請フテ罷ム。

コ、ニ至テ没ス。年六十四歳就時識量群ニ絶ク。夙ニ毛利氏ノ式目規格一定ノ書ナキヲ憂フ。當職ト爲ルニ及ンテ舊記ヲ檢シ。斟酌折衷シテ制法ヲ作ル。萬治三年九月ニ至テ功ヲ畢ル。綱廣之ヲ頒行ス。萬治茶目ト云フ。實ニ毛利家一代ノ大典ナリ。其ノ政ヲ執ルニ儉素ヲ尚ヒ。冗費ヲ省ク。是ヨリ先キ公廩頗ル困迫ニシテ。不虞ノ准備ナシ。堅田就政安房承應元年當職

トナリ。爲ス所アラントニテ果サス。就時就政ニ代ルニ及ンテ財政其ノ宜ヲ得テ。毎歳贏餘アリ。之ヲ内庫ニ納メテ准備金トス。僅々六年間ニシテ銀三千三百五十六貫文目ノ多キヲ致セリ。コレヨリ世々之ニ効フテ。贏財ヲ内庫ニ納ム。重就ノ時ニ至リ初メテ撫育方ヲ置キ。大ニ之ヲ増殖セシム。重就書ヲ作り子孫及ヒ有司ヲ誡メ曰ク。有心ノ者ハ言ハスシテ余カ此



ノ舉ヲ知ラント。數十年ヲ閱シテ嘉永癸
 丑ノ歲トナリ。花旗國ノ使船相模ノ浦賀
 港ニ突入シテ。天下ノ形勢忽チ變ス。爾リ
 シヨリ來。敬親兵ヲ相ニ攝ニ出シ。官武ノ
 間ニ周旋シ。礮ヲ鑄。銃ヲ購シ。巨艦ヲ造リ。
 汽船ヲ買ヒ。夷艦ヲ馬關ニ攘ヒ。幕軍ヲ四
 境ニ部ソケ。遂ニ王命ヲ奉シテ鳥羽伏見
 ニ會衆ノ兵ヲ敗リ。松山ヲ降シ。福山ヲ徇
 ヘ。江戸及ヒ北越松前等ニ賊軍ヲ討チテ。

皇政一新ノ偉業ヲ贊ク。其ノ間ノ費用幾
 許ソ。公廩ノ獨リ辨スル所ニ非ラス。多ク
 之ヲ撫育ニ仰ケリ。而シテ猶刺金七十萬
 兩ヲ朝廷ニ獻スルヲ得ル。若シ重就ノ孫
 謀ナカリセハ何ソ能クコノニ至ラン。而
 シテ其ノ撫育ノ基ヲナス者ハ。就時與テ
 功アリト云フヘシ。榎本家譜
重就書付四月。秋風雨。
 指月城破損ス。故事表九月。歲元ヲ高麗峠門
 ノ西ニ移ス。モト在リ。本集

紀元二千三百九年

九年四月。藩士食祿二百石已下ノ者困迫スルヲ以テ。隨意ニ田舎間ニ移住スルヲ許ス。渡邊年表八月。萩洪水。同上十二月廿四日。萩古萩火アリ。延テ土原ニ及フ。故事年表

紀元二千三百三年

十年五月。幕府甲府ノ家老島田淡路同孫助ヲ網廣ニ預ク。之ヲ平安寺ニ置ク。後平佐某阿曾沼某カ宅ヲ收メテ。之ニ移ス。淡路元祿十年閏二月廿三日死ス。孫助ハ寶永六年八月廿日。新撰雜彙渡邊年表。日免サル。

紀元二千三百廿五年

十一年。兩國內ノ耕牛多ク斃ル。九月十日

之ノ檢スルニ。其數凡テ四萬八千八百十八頭ト云フ。故實年表十一月十三日。萩松高院火ク。龍昌院ニ及フ。龍昌院ハ秀就ノ室徳川氏ノ香華寺ニテ。其ノ中門ハ輝元豐臣

太閤ヲ招飲セシ時。製造セシ伏見郎ノ物ナリ。柱扉共ニ金漆ヲ堆シ。螺鈿ノ鳥獸花

艸ヲ嵌ス。慶長十年本寺建立。本寺モト輝元ノ妾兒玉氏ノ香花所トシテ建立ス。當時周慶寺ト

号セリ。明暦元年徳川氏遊ス。本寺ヲ其ノ香花所トシテ龍昌院ト改メ。山口古熊村西方寺ヲ周慶寺ト改メ。兒玉氏ノ香花

所ノ時中門トス。世ニ青貝門ト稱ス。之

ヲ見ル者精巧美觀ニ譽ノ移ルヲ忘ル。故

ニ日暮門トモ字セリト云フ。龍昌院由来書。渡邊年表。

延寶元年。耕牛盡ク斃ル。故實年表。

二年八月十七日。兩國內大風洪水。渡邊年表。是

年。網廣病ヲ以テ滯府ス。是ヨリ歸國セス。

故事年表。

三年。飢饉。郡方年表。渡邊年表。

四年五月六日。萩洪水。郡方年表。故實拔萃。六月二日。

紀元二千三百廿二年
紀元二千三百廿三年
紀元二千三百廿四年
紀元二千三百廿五年

地震コレヨリ日々震シテ月末ニ至ル。郡方

表年

五年七月十五日。紙幣札十種。二分。三分。四分。

五分。壹匁。二匁。三匁。四匁。發行ス。三家状扣

六年正月廿九日。萩城三郷内火アリ。郷外

ニ及フ。三十八戸。同上。是年。始メテ足輕者ニ名

字ヲ稱スルヲ許ス。山崎漫筆。

七年三月廿九日。吉川廣嘉出萩ス。頃日士

民困窮スルヲ以テ米壹萬石ヲ進納ス。故事

紀元二千三百廿六年
紀元二千三百廿七年
紀元二千三百廿八年

表年六月七日長井如閑治部右衛門ノ三男與二
 郎ヲ野山獄ニ下ス。如閑ハ輝元ニ殉セシ
 次郎左衛門元房ノ子ナリ。家老福原廣俊
 隱ト相惡ム。因テ曩キ四年十一月十八日藩藉削
 除ヲ乞フテ京師ニ寓ス。客年江戸ニ赴キ。
 再録セラレシテ且元房ノ故ヲ以テ之ヲ允ス。
 譜代ニシテ。本年ニ至リ赤川就直仁右衛門綱廣ノ旨ヲ傳
 フ。如閑不遜ノ語ヲ吐ク。因テ五月十七日

如閑ヲ邸内ニ幽ス。十九日ノ夜腹瀉シテ
 死ス。其家族京師ニ在リ。京邸留守居ニ命
 シ之ヲ收メシム。嫡男四郎。二男五郎名ハ政時
 家居セス。三男與二郎。四男八郎。并ニ如閑
 カ妻及ヒ女子捕吏ニ抗ス。遂ニ縛ニ就ク。
 之ヲ邸内ニ拘ス。其夜酒ヲ乞ヒ。謠ヲ唱テ
 卧ス。翌日食ヲ與ヘントシテ之ヲ檢スレ
 ハ。蚊帳内ニ母子枕ヲ並テ斃ル。獨與二郎
 死セス。云フ昨夜毒藥ヲ仰ク。自己不幸ニ

シテ藥驗セスト。茲日京師ヨリ送致セリ。
 與ニ郎爾後記録スルナシ。蓋シ獄中ニ死
 セル十ラシ。四郎ハ上総國本納村蓮福寺
 ニ潛居ス。之ヲ告ル者アリ。九月江戸邸ヨ
 リ士七人足輕八人中間五人ヲ遣ハレシ之
 ヲ斬ル。廣俊モ家僕二人ヲ之ニ添フ。十三
 日四郎ヲ斬リ。十四日江戸ニ還ル。廣俊其
 首ヲ檢ス。五郎ハ名ヲ道喜ト變シ。廣俊ヲ
 狙撃セントセシカ。跛者ニテ及フ。能ハ
 ス。憤懣ノ餘。伊勢國四日市ノ河原村ニ無
 テ自殺ス。兄四郎カ死スルノ翌日十リ。尽
 集湯淺鈴川松岡山縣。廿七日。指月山要害
 井上高橋増原家譜。ニ震ス。故事年表 十月。幕府松平光長越後ノ家
 臣永見長頼大蔵ヲ網廣ニ預ク。松雲院ニ居

紀元二千四百十年

ク。十二年二月十九日江戸ヨリ送新撰
致九年二月江戸ニ送還ス。雜彙
 天和元年二月十日。萩山中町火アリ。延テ

濱崎ノ漁人町ニ至ル。二百六渡邊 七月。幕

府巡見使高木忠右衛門。服部久 來ル。上同

二年二月廿七日。網廣老ス。男吉就立ツ。江

家譜 三月廿四日。萩平安古町火アリ。延テ塚

内ニ及ヒ。蔵本ノ作事方。宮崎八幡宮。大樹

院。金剛院。妙悟寺。滿願寺等ヲ燒ク。日付所

三年閏五月十四日。毛利元知江戸ニ卒ス。日帳

紀元二千四百三年

十月廿八日天野景重藤内ニ死ヲ賜ヒ其

子權左衛門ヲ放千景重カ組頭内藤就信

與三右衛門ヲ免ス景重萩海潮寺ニ死ス景重

ハ天野隆良ノ曾孫就信ノ男ナリ内藤就

信及ヒ組證人中丞政之左衛門疾ミ之ヲ

部ソケント欲シ爲ス所典刑ニ觸レ以テ

之ニ及フ景重人ト爲リ傑黠武幹アリ略

文事ニ渉ル其ノ自盡セントスル親族ヲ

以テ監吏ニ乞ヒ曰ク今錯人ヲ定ムル固

ナリ而レ臣カヲ盡シテ自ラ試ミント監

吏之ヲ許ス是ニ於テ筆硯ヲ求ソ絶命ノ

句ヲ作り之ヲ其子權左衛門ニ與フルノ

書ヲ附シ了テ廁ニ上リ盥嗽シテ本尊佛

ヲ一拜シ席ニ就キ套衣ヲ脱シテ禮キ三

方上ノ刀ヲ取り腹ヲ刳シ腕ヲ刺ス二回

氣管ニ中ラス刀ヲ墜ス搜テ之ヲ拾ヒ獨

言シ曰ク未タ切レサルナリト乃チ復タ

氣管ヲ按シ刀ヲ刺シテ刳斷ス鮮血淋漓

更ニ屈スル色ナシ。刀ヲ三方ニ置キ。兩手ヲ以テ之ヲ右側ニ安シ。徐々トシテ伏ス。

仕置帳。没収家筋帳。無尽集。天野家記。

貞享元年五月。幕府興津忠頭久七ヲ毛利

元平ニ預ク。六月清未ニ送致ス。元祿三年六月廿六日死ス。幕府目付ヲ

下シ之。柙並是年。款渡口ニ橋ヲ架ス。故事年表

三年。田畠ニ厚薄ノ不同アルヲ以テ。湯淺

直光小右衛門。揚井春勝三之。厚母就忠五郎右衛門

ニ命シ。田八五ツ成ヲ四ツ成ニ。畠八石貫

紀元三萬六年

十二文目ヲ十文目ト改テ。檢地ス。兩國石高八十壹萬八千四百八十七石三斗七升七合トナリテ。本國卅六萬七千七百七十七石六斗六升九合ナリ。長府徳山領檢地ハ舊高ナリ。

紀元三萬七年

東山天皇貞享四年。春。款唐榎ヨリ三塚外ノ堀ニ河ヲ穿ツ。新堀川ト名ツク。渡邊年表

元祿二年閏正月。幕府中根某傳三ヲ毛利

綱元ニ預ク。五年六月免ス。八年三月末四月十

七日。綱廣江戸ニ卒ス。泰巖院綱廣幼ニシテ

紀元三萬九年

畫ヲ能クス長シテ雄偉果敢武ヲ好ミ藩士ノ子弟器局アル別ニ俸ヲ與ヘ浮浪ノ武技ヲ以テ仕ヲ干ル又祿ス故ニ藩士ノ籍先代ニ増加セリ而シテ深ク意ヲ政治ニ注シ榎本就時ヲ任用シテ其能ヲ盡サシム居常德川氏ノ分國安堵ヲ以テ輝元ヲ誘キ已ニシテ約ヲ變シ分國ヲ削奪セシヲ憤リ且ツ豐臣氏ノ時輝元家康ト同シク大老ノ列ニ在リ其ノ子孫ニ至テ之

ニ屈下スルヲ耻チ江戸ニ在ル多ク病ニ托シ營ニ登ラス幕府其ノ越前中納言秀康ノ女ノ出ナルヲ以テ強テ問ハス性酷ク牛ヲ愛ス參勤交代ノ函簿中モ駿牛ヲ從フ世人朝テ長門牛ト云フ固リ性ノ然ラシムル所トイヘ氏蓋シ亦之ニ藉テ以テ韜晦スルナリ東郊座右記 眞蹟等參取四年吉就椿郷松本ニ東光寺ヲ建立ス由來

紀三十五至年

紀元三百五十二年

六年四月吉就藩士ノ支藩主ヲ某殿ト稱
 スルヲ改メテ某様ト唱ヘシム。山崎漫筆七月
 十四日山田頼熙原江戶邸ニ自殺ス。頼熙
 字舜俞。幼名又三郎。復軒ト號ス。防府ノ人
 ナリ。幼時ヨリ書ヲ讀ミ字ヲ畫シ。嬉戲ヲ
 喜ハス。五歳始メテ大學ヲ讀ム。或人問フ
 テ曰ク。兒ノ頃讀ム所何ノ書ソ。熙答曰ク。
 大學。又問フ。書中何ヲカ述フ。曰ク。都テ是
 身ヲ修メ國ヲ治ルノ丁。只恨ムラクハ未

夕之ヲ身ニ行フ丁能ハサルノミト。問フ
 者大ニ歎異ス。十一歳ノ時。父時頼三熙ヲ
 携テ京師ニ寓ス。後水尾上皇熙カ敏才ヲ
 聞キ。熙ヲ召シ詩ヲ賦セシム。熙直ニ一絶
 句ヲ賦ス。上皇其疾ニ成ルヲ以テ。或ハ宿
 構ナルヲ疑ヒ。詔シテ唐才子傳ヲ讀マシ
 ム。熙一字ヲ錯ラス。音吐清暢。一坐耳ヲ傾
 ク。上皇梶井盛胤法親王ヲ顧テ。此兒聞ク
 所ニ過ク。顔淵閔子騫今世ニ生レタリト

謂フヘシト。乃チ賞賜アリ。妙法院堯恕法親王深ク熙カオヲ愛シ。伊藤坦菴ニ命シ。熙ニ師タラシム。熙坦菴ニ事ヘ孜々倦マズ。坦菴五經ノ訓點ヲ改ム。熙其事ニ預リ。討論虚日ナシ。坦菴カヲ盡シテ教授ス。十二歳盛胤法親王ノ命ヲ以テ天台山ノ賦ヲ作ル。半晷ニシテ成ル。凡テ八百廿字。延寶七年吉就京師ヲ過キ。熙ヲ召シ見テ。其才ヲ奇トシ。携テ東下シ侍讀トス。時ニ年

十四歳ナリ。吉就一夜燕席ニ於テ蠟燭ヲ刻シ。詩ヲ賦セシム。燭一寸ヲ消セスシテ二絶句ヲナス。重テ命ス。則チ三絶句ヲ賦ス。又七步ノ詩ヲ命ス。六步ニシテ成ル。吉就歎賞シ曰ク。卿カオ曹子建ニ勝ル一步ト。諸藩主熙カ名ヲ傳テ記ヲ作ラシムル者多シ。十六歳高野ノ宿坊ニ遊フ。僧曰ク。大師益田池碑ノ稿本。字體怪奇。讀ム者ナシ。子幸ニ爲メニ之ヲ讀メ。熙之ヲ讀ミ。且

其義ヲ説ク凝滯ナシ僧驚テ曰ク若シ大
師ヲシテ之ヲ聞カシメハ必ス千歳ノ子
雲ヲ得ルトセン天和二年朝鮮修信使來
聘ス江戸本國寺ニ館ス熙之ニ即テ酬唱
ス使人深ク熙カ才ヲ奇トス其國ニ歸ル
熙ヲ念フテ自ラ己ム能ハス舟中書及ヒ
詩ヲ寄セテ別ヲ悵ムノ意ヲ言フ是ニ因
テ熙カ名益加ハル是ニ至テ享年終ニ二
十八歳其死スル所以ヲ知ラス或云フ吉

就黃蘗僧慧極ヲ寵信シ東光寺ヲ建立ス
熙之ヲ諫ム吉就聽カス其規模宏壯且田
若干町ヲ寄セントス熙憂悶終ニ之ニ及
フ吉就悔惜爲メニ宿構幾分ヲ減セリト

忠節事跡稿
山田家譜

紀三千三百五十年

七年二月七日吉就江戸ニ卒ス壽德院四月

十三日吉廣嗣ク江氏家譜八月十八日幕府國

目付萩ニ來ル雜有文故

十年幕府二國ノ地圖ヲ作ラシム渡邊年表

紀三千三百五十年

紀三千五百八年

十一年三月三日安部春貞吉左衛門没ス七十
 春貞父ヲ直貞ト云フ吉見廣長ニ仕フ廣
 長慶長九年出奔ス直貞賈人トナル春貞
 其二男ニテ幼ヨリ歌學ヲ好ミ延寶七年
 江戸ニ遊學ス翌年綱廣吉川維足ニ依頼
 シ古今集ノ秘訣ヲ傳受セシム其年祿ヲ
 賜フテ士籍ニ列セリ子孫歌學連歌ヲ以
 テ業トス安部家譜九月松本川ニ始メテ橋ヲ
 架ス故事年表

紀三千五百九年

十二年幕府藩士ノ分限帳ヲ檢ス

紀三千五百十年

十五年五月萩土原ニ新道ヲ通ス黑澤繩

手ト字ス故事年表八月晦日洪水渡邊年表十月朔

日萩大風海潮歎揚戢元ニハル故事年表是年

豆腐ヲ製造スルヲ禁ス同上

紀三千五百十一年

寶永元年萩城ヲ修理ス神並年表

紀三千五百十二年

二年六月朔日萩洪水渡邊年表十月廿二日萩

火アリ平安古町ニ延ク故事年表

紀三千五百十三年

三年六月廿五日萩大風雨渡邊年表是年川島

紀二千五百七十年

莊川島ヨリ長福ニ至ル間ニ堤塘ヲ築キ
椿郷西分濁淵ヨリ小松江ニ溝ヲ穿ツ同上

四年十月十三日吉廣江戸ニ卒ス青雲院

一月廿三日養子吉元襲ク江氏家譜

紀二千五百七十八年

五年十二月十九日夜大津郡三隅下村ノ

野波瀨浦火アリ九十戸新撰

紀二千五百七十九年

六年六月椿郷西分櫻江ニ橋ヲ架シ濁淵

ニ溝ヲ穿チ阿武川ニ通ス新撰是歲救米

倉ヲ新建ス渡邊年表

紀二千五百七十年

中御門天皇寶永七年七月幕府巡見使黒川與兵衛

衛岩瀬吉左衛門來ル故事年表

紀二千五百七十年

正徳元年三月吉元江戸ニ参勤セントス

四日三田尻ニ抵ル幕府朝鮮修信使ノ來

聘スルヲ以テ吉元ノ参府ヲ緩シ赤間關

ニ接待セシム九日吉元三田尻ヨリ萩ニ

還ル七月吉元豊浦ニ赴ク八月廿九日修

信使赤間關ニ來ル吉元之ヲ饗ス九月朔

日修信使出帆ス吉元三日ヲ以テ萩ニ還

紀三十三五年

ル信使 十六日江戸ニ赴リ故事

二年二月大津郡瀬戸崎浦火アリ

四月在郷諸士ヲ款ニ移住セシム其食

禄百六十石以上ハ三箇年内已下ハ五箇

年内ヲ期トス故事 八月九日豊浦郡大風

秋稼ヲ損ス山崎漫筆 是歲稔ラス故事

三年二月二日美禰宰判ヲ割テ吉田宰判

ニ隸シ小郡宰判ヲ廢シテ船木及ヒ山口

宰判ニ隸ス役人帳 四月客年凶歟ヲ以テ米

紀三十三五年

價銀札百文目ニ六斗トナル故事 七月十

三日兩國大風南邊尤甚シ春法定檢 十月廿

三日吉元長府藩主毛利元朝ヲ以テ嗣子

トシ元朝ノ叔父元矩ヲシテ其ノ後ヲ承

ケシム元朝名ヲ宗元ト改ム享保六年吉

元ニ先キテ卒ス系圖

四年七月朔日吉元志道就保丹 穴道就晴

藩玄ヲ罰シ食禄ヲ削奪ス是ヨリ先キ就保

江戸當役就晴國當職タリ二人吉元ノ末

紀三十三五年

藩府長ヨリ入嗣シ。政事ニ熟セサルヲ幸トシ。財政ノ困迫ヲ隠シテ告ケス。既ニシテ諸士ニ課スルニ半知行ヲ以テス。吉元兩人ニ加祿ス。漸ニシテ兩人ノ不正ヲ覺リ。遂ニ本年二月十一日兩人ニ逼塞ヲ命シ。コヽニ至テ就保カ食祿四千五百石ノ内二千五百石。就晴カ食祿三千五百石ノ内千二百石ヲ削リ。押隠居トシ。家督ヲ其子ニ與フ。押並年表。故事年表。志道家譜。史道家譜。八月三日。大津

紀二千三百十五年
紀二千三百十六年

郡津黄村ノ海岸鳴動ス。九日ニ至テ止マズ。其夜海中ニ巨巖出現ス。字シテ立石ト云フ。故事年表
五年春。阿武郡濱崎ニ松ヲ植ウ。邊年表
享保九年閏二月廿三日。萩城三堀内火アリ。國司主計郎内八月。川島莊長福ヲ河添ト改ム。幕府長福小次郎。家重公ノ初名ナリ。ノ名字ヲ避クヘキヲ命スルヲ以テナリ。柿並年表九月廿三日。小郡宰判ヲ復ス。後人帳十月。三絃流

紀三千七百七十七年

行ス、吉元内旨ヲ下シ之ヲ戒ム。故事年表是年、幕府海陸口留番所ノ所在地并ニ其ノ定書ヲ録上セシム。渡邊年表

二年二月七日、阿武郡小畑ノ今浦火アリ。八十九戸、納屋三十字、同上。四月、幕府唐船追拂ヲ命ス。杵並年表五月、唐船豐前小倉ニ來ル。十九日、小倉ヲ援ケテ之ヲ拂フ。新撰雜彙兒玉家譜、村上家譜。六月、幕府巡見使松平與左衛門、落合源右衛門。來ル。故事年表是年、萩江向ニ川ヲ穿テ、川島ヨリ新堀川ニ通

紀三千七百七十八年

ス、渡邊年表

三年正月十二日、幕府唐船事件ヲ以テ使渡邊外記ヲ赤間關及ヒ小倉、長崎ニ下ス。是ニ因テ吉元、益田就高織部、佐々木元氏舍人ヲ赤間關ニ根來元祐主馬ヲ大津郡向津具ニ差遣ス。渡邊年表、益田家譜、佐木家譜、根來家譜。二月十五日、唐船小倉ニ來ル。之ヲ拂フ。渡邊年表十九日、唐船向津具ニ來ル。之ヲ拂フ。新撰雜彙廿五日、堅田廣慶安房、益田就高ト交替ス。渡邊元太即左衛門

ヲ厚狹郡吉田ニ差遣シ赤間關ニ應援セ

シム渡邊年表益田家譜三月廿日毛利元

矩江戸ニ卒ス時ニ年十五歳四月十三日

幕府元矩ノ十七歳未滿ナルヲ以テ遺領

ヲ收メ吉元ニ還附ス系圖渡邊年表十五日吉元

毛利元平元知ニ三萬八千石ヲ加ヘテ長

府ニ移ス元平後匡廣ト改名ス同上十六日

唐船赤間關ニ來ル之ヲ砲撃ス渡邊年表八月

萩城ヲ修理ス山崎漫筆閏十月改メテ足輕以

下者ノ木履ヲ穿ツヲ禁ス故事年表是年

萩城ノ北濱及ヒ新堀ニ松ヲ植ウ故事年表

四年正月是ヨリ先キ萩城三郷内ニ文武

替古場ヲ創スコ、ニ至テ成ル明倫館ト

名ソク小倉實操尚ヲ以テ祭酒トシ二月

上丁始メテ釋菜ヲ修ス小倉家譜五月十八日

毛利匡廣初テ江戸ヨリ下リ長府ニ入ル

歸國客年ニ當ル而シテ今年ニ三未至リ暇ヲ賜フテ順番舊ニ違フ年表

五年二月廿日萩城三郷内火アリ赤川勘解由郎

紀二千三百十九年

紀二千三百八十年

作事方延燒ス。年渡邊三月廿二日吉元毛利

匡廣ニ秀元以來分與ノ地ヲ與フ。三末年表渡邊

年七月廿日島田孫助再ヒ萩ニ來ル。年十一

一月四日没ス。年渡邊廿九日吉田宰判ニ隸スル舊

美禰宰判ノ地ヲ美禰宰判ニ復ス。帳役人十

一月十五日萩新堀ニ松ヲ植ウ。年渡邊是年

吉元永田政純衛瀨兵ニ命シ藩内ノ古文書

ヲ檢シ又井上親明衛武兵ニ命シテ一村限

明細繪圖石高附各村境目書及ヒ由來書

寺社由來書等ヲ錄上セシム。本原親明書ヲ

佐々木縮往ニ學フ喜テ狂畫ヲ作ル傍ヲ

土偶ヲ製スルニ巧ナリ。真跡及土偶

六年萩城ノ北濱ニ松ヲ植フ。年渡邊

七年六月廿三日兩國内風雨翌日ニ至ル

法郡作

八年十一月三日赤間關火アリ。百三十邊渡

年十月廿日川島莊河添本町及ヒ中町火ク。百

十萩八町火アリ。百六十故事年表

紀元三百十年
紀元三百十年
紀元三百十年

山口縣史略

卷之五

四四

古堂藏

紀元三百五十年

九年正月廿二日萩城三堀内火アリ柳澤

邸失堀外ニ延キ新堀ニ至ル渡邊六月廿

二日平安古火アリ渡邊九月十九日

新堀及ヒ河添中町火アリ二十是年

火災頻リニ起ルヲ以テ辻番アヲ置キ端

坊境内ニ火樓ヲ設ク故事

十年正月廿九日萩城三堀内火アリ國司

邸上同

十一年八月七日阿武郡須佐ニ唐船來泊

紀元三百五十年

紀元三百五十年

八月兵ヲ須佐ニ差遣ス十日又兵ヲ出

ス十一日是ヨリ先キ九日唐船ヲ砲撃ス

本日ニ至テ燒没セリ唐船打拂記魚重家

譜小笠原家譜兒玉家譜榑是歲幕府人口

ヲ錄上セシメ且ツ以徃子午ノ歲ヲ以テ

之ヲ檢査録上スヘキヲ命ス渡邊

十二年四月萩平安古安養寺北側ニ新道

ヲ作り又唐樋町ヨリ下土原ニ新道ヲ通

ス上同九月十六日逆罪人新五郎ヲ阿武郡

紀元三百五十年

大谷ノ刑場ニ磔シ。其實父伊藤彦右衛門
 カ新五郎ノ罪ヲ曲庇セシヲ罰シ家祿ヲ
 没收ス。新五郎ハ彦右衛門ノ二子ニテ。美
 禰郡赤村居住坂藤右衛門ノ養子トナル。
 養父其品行ノ修マラサルヲ戒ム。新五郎
 養家ノ逐フ所トナラシテ恐レ。六月養父
 及ヒ其妾ヲ斫殺ス。因テ士籍ヲ削リ。市ニ
 肆ス。三日ニシテ磔罪ニ處セリ。仕置帳
 歲吉元彫工河治友父六郎右衛門及ヒ河治友

延享十八年
享和元年

賜之二命シ。鑄ヲ造ラシメ幕府ニ獻ス。
 幕府其ノ精工ヲ賞シテ。銀五枚ヲ友父友
 周二賜フ。友父等遠祖ヲ道祐ト云フ。文明
 十八年大内義興ノ鑄ヲ造レリ。河治家譜
大内義興
 鑄銘刀
 十三年六月十二日。萩洪水。渡邊年表
 十四年四月十八日。大津郡瀬戸崎火アリ。
 五百十同上五月十一日。赤間關火アリ。
 上同 六月十三日。萩歲元火ク。故事年表 十月廿六

紀元三百零九年

日毛利師就父匡廣ノ遺跡ヲ嗣ク。弟匡平ニ壹萬石ヲ分與シ。清末ニ封ス。匡廣カ嘗テ請願セシ所ナリ。系圖三未年表

十五年二月十八日。豐浦郡室津浦火アリ。戸百渡邊六月十八日。長府火ク。戸百同上十二月朔日。紙幣ヲ發行ス。同上

紀元三百零八年

十六年九月十三日。吉元江戸ニ卒ス。院恭桓十月廿三日。宗廣嗣ク。系圖日帳

紀元三百零七年

十七年七月。蝗アリ。渡邊年表八月十二日。萩洪

紀元三百零三年

水渡邊年表是歲大饑。同上及周南文集

十八年大ニ疫ス。當職毛利廣政筑後回郡饑

疫ヲ救濟ス。周南文集幕府ニ金二萬兩米

壹萬六千石ヲ借ル。渡邊年表二月。兩國內ノ饑

餓ヲ檢ス。正月以降十七萬七千五百餘ノ

多キニ上レリ。故事年表三月廿七日。毛利廣政

没ス。四十七歲廣政ハ元就ノ六男元政五世ノ

孫ナリ。幼ニシテ考ヲ以テ稱セラレ。性簡

重純懿學ヲ好ム。年十七八ニシテ國人目

シテ小松殿ト云フ。平重盛ニ比スルナリ。
 寶永七年始ノテ國加判トナル。コレヨリ
 江戸國加判ニ出入シ。享保七年辭ス。居ル
 三年當職ニ拜ス。在職七年病ヲ以テ去ル。
 十六年吉元江戸ニ在テ病ム。廣政ヲ召ス。
 到レハ則チ柩ニ在リ。留テ加判トナル。翌
 年宗廣ニ從フテ歸ル。宗廣當職ヲ命シ。國
 事ヲ委ス。廣政同列ニ讓リ。拜セサル者三
 日。宗廣ノ託愈勤ム。終ニ命ヲ拜ス。是年凶

荒本年大疫餓莩滿路。廣政嘗テ政ヲ爲ス
 時。建議シテ郡邑ニ社倉ヲ興シ。儲蓄以テ
 饑饉ニ備フ。此ニ至テ倉ヲ發キ救濟ス。十
 ニ二三ヲ支フ。乃チ府實ヲ出シ穀ヲ市フ。
 會幕府ノ金穀ヲ致スアリ。廣政之ヲ得テ
 益出シ濟フ。正月五日菽ヲ發シ。郡邑ヲ巡
 視シ。日夜居ラス。時ニ大雪寒甚シ。人其ノ
 少憇ヲ勸ム。納レス。拮据滋苦ム。廿九日還
 ル。則チ病ム。病勢日ニ進ムトイヘ氏。牀褥

ヲ屏ソケ僚屬ト日夜荒政ニ從事ス。没スルノ日猶安ニ即カス。醫ニ枕シテ正寢ニ絶セリ。周南文集 毛利家譜六月十八日佐々木縮往平太没ス。八十六歳縮往字沕真藩醫佐々木道安ノ二子ナリ。經學文章ヲ以テ別ニ俸祿ヲ賜ヒ。儒員ニ列ス。業餘丹青ヲ能クス。當時國內雲谷狩野ノ二派アルヲ知ルノミ。縮往始メテ明人ノ古蹟ニ法リ。自ラ機軸又出シテ一家ヲナセリ。物茂御縮往カ畫

紀三五夏年

賞シ。王朝川文衡山ニ比ス。門人ニ井上親明張方平半歳アリ。方平鮭翁天然ト號ス。能ク師法ヲ守テ。畫ク所尤多シ。其款ナキ者ハ人以テ縮往ノ筆トス。佐々木家譜 九月廿七日阿武郡須佐浦火アリ。百十渡邊 六戸十二月大津郡向津具大浦火アリ。百餘戸 同上是年赤間關火アリ。阿彌陀寺災ニ罹ル。十九年正月三日赤間關伊崎浦火アリ。百戸

渡邊年表

紀元三百年

二十年幕府兩國ノ産物ヲ録上セシム。宗廣仁保義方珠烏田貫通智命シテ之ヲ

調査セシム。産物正扣圖注文産物付立産物以呂波寄産物方言産物帳

往復

紀元三百年

櫻町天皇元文元年二月五日草場中章兵没

ス。五十九歳中章字豹藏居敬ト號ス。肥前ノ人

ナリ。能書ヲ以テ元祿十五年本藩ニ仕フ。

或ハ云フ來舶清人ノ子ナリ。書ヲ活テ遊

歴シ本國ニ來ル。巨筆ヲ背ニス。偶吉廣大

照院ニ詣スルノ途上ニ見テ之ヲ異トシ

書ヲ作ラシム。意ニ愜フテ祿セリト。草場家譜

古老十二月五日。豐浦郡安岡浦。阿武郡大

井村火アリ。共戸餘百渡邊年表

紀元三百年

二年十一月二日。小倉實操没ス。六十歳實操

尚齋ト稱ス。藩醫小倉宗爾ノ季子ナリ。襁

褌中足ヲ損ス。長スルニ及ンテ足ノ人ニ

若サルカ爲ニ。慨然憤起學ヲ修ム。年甫十

六京師ニ遊フ。居ル六年歸省ス。吉就數召

紀元一千八百八年

見シテ書ヲ講シ。詩ヲ賦セシム。元祿十二年學費ヲ賜ヒ。再ヒ京師ニ遊學ス。寶永三年吉就江戸ヨリ至ル。實操大津驛ニ謁ス。駕ニ從フテ歸ル。別ニ俸祿ヲ賜ヒ。儒負ニ列ス。享保四年明倫館祭酒ニ拜ス。祭酒實操ニ始マレリ。小倉家譜。周南文集。十二月九日。赤間關火アリ。戸百渡邊年表

三年六月朔日。洪水。同上八月。諸宰判ノ獵銃ヲ檢ス。

紀元一千八百九年

四年四月。萩城三塚ノ溝ヲ浚ヘ。北海ニ通ス。故事。年表七月九日。大樂朴水没ス。七十歲。朴水初ノ村田平右衛門常樹ト稱セリ。狩野永真ニ就テ畫ヲ學ヒ。剃髮永伯ト號ス。吉就ノ祿スル所トナル。後ニ吉元ノ命ヲ以テ業ヲ養朴ニ受ケ。今ノ名ニ改ム。子探玄父業ヲ繼テ。法橋ニ叙セララル。大樂家譜是年。宗廣藩士ニ家譜ヲ録上セシム。譜録事

寛保元年正月廿三日。萩城三塚内火アリ。

紀元一千四百一年

兒王豐
前邸

是春明倫館ニ石碑ヲ立ツ山

縣孝孺助少ヲシテ其ノ文ヲ撰セシム新撰
雜彙

周南文集七月十九日北海海嘯暴潮萩蔵元ノ

石垣ニ上ル故事
年表是年萩城二墾外ニ松ヲ

植ウ渡邊
年表

二年十一月四日萩大雪五日ニ至ル故事
年表

三年八月十三日大風萩市街ノ屋舎顛倒

又七十
五戸年表大享元年八月十日大風雨上同是歲中西國

紀元二十四百二年
紀元二十四百三年
紀元二十四百四年

蝗アリ。饑ニ幕府米穀ヲ回漕シテ之ヲ救
フ遺塵
抄

二年六月洪水渡邊
年表七月十五日兩國内洪

水上同三年三月廿八日川島莊河添本町火アリ。

五月幕府巡見使小幡又十郎板橋
民部伊奈兵庫

來ル故事
年表七月廿四日目安箱ヲ設置シ。

冤枉アル者ヲ訴ヘシム故事
年表

桃園天皇延享四年二月十四日阿武郡椿郷

紀元二十四百六年
紀元二十四百七年

紀元二千四百八年

西分大照院火ク。天樹院ノ堂宇ヲ移シテ
天樹院ト寺號ヲ改ム。大照院ハ秀就ノ菩
提寺ナリ。渡邊年表
故事年表

寛延元年九月二日。兩國內大風雨。熊毛上
關大島ノ三宰判殊ニ甚シ。秋稼ニ萬餘石
ヲ損ス。書付扣渡
邊年表是歲款城二墾ニ下馬場

ヲ設ク。故事
年表二年十二月。門戸ニ戸主ノ名字ヲ標セシ

ム。故事
年表是年。天樹院ヲ舊地ニ復ス。

紀元二千四百九年

紀元二千四百十年

三年。大照院ヲ再建ス。

寶曆元年二月四日。宗廣卒ス。院觀光四月十

二日。毛利匡敬長府ヨリ入りテ。宗廣ノ遺

跡ヲ襲ク。名ヲ重就ト改ム。五月三日。重就

舊領ヲ男匡滿當時文ニ讓與ス。
之助。文ニ讓與ス。
系圖。三家
狀扣日帳

七月廿八日。重就本日以降帳簿記録ニ黃

紙ヲ用ウ。渡邊
年表

二年八月十二日。山縣孝孺没ス。六十
六歲孝孺

字次公。少助ト稱ス。周防右田村ニ生ル。因

紀元二千四百十一年

テ周南ト號セリ。年甫十九父長白良携テ江戸ニ往ク。贄ヲ物茂卿ニ執ル。茂卿始テ古文辭ヲ唱フ。和スル者蓋シ寡シ。獨安藤煥圖從フノミ。孝孺大ニ其學ヲ説ヒ。煥圖ト相切劘ス。茂卿モ亦其入ヲ得タリト稱ス。爾後茂卿ノ學日ニ興リ。海内風靡ス。居ル丁三年業成テ歸ル。正徳三年朝鮮修信使來聘ス。舟赤間關ニ至ル。吉元諸文學ヲ遣ハシ接待セシム。孝孺之ニ與ル。年尚少

シ。而テ諸書記ト應酬敏捷。文才儁逸。韓又大ニ之ヲ賞異ス。對馬ノ文學兩森東賓ニ擯タリ。座次孝孺ニ交歡シ。目スルニ海西無雙ヲ以テス。三使孝孺ノ作ヲ睹テ。東ニヨリ特ニ孝孺ヲ請ヒ見ル。是ニ於テ聲名籍甚。是ヨリ後吉元ニ侍讀ス。宗廣重就ニ歷仕シ。陪從東西スル事多年。元文二年明倫館祭酒小倉實操死ス。孝孺代テ館事ヲ督ス。乃チ復東セス。既ニシテ祭酒トナル。

益學規ヲ立テ後進ヲ教育ス山根之清即

左衛門字ハ子小田村公望伊介字津田泰

忠助字ハ子小倉實廉廉平字和智棣卿

東陽ト号ス九郎左衛門字田坂長温彦七字八子恭

仲子由甚文右衛門字增野有原内記

子泉雲門林義卿周父東溟瀧長愷

彌八鶴臺山縣魯彦季八字波多野

テ世ニ顯ハル延享二年秋泄痢ヲ患フ明

年ノ春ニ至テ愈ヘス職ヲ辭ス聽サレズ

家ニ就テ病ヲ養ハシム孝孺尸位ノ毀ヲ

恐レ猶館中ニ在テ學務ヲ與リ聞ク寛延

元年懇請シ職ヲ退ク特ニ祭酒ノ俸秩ヲ

賜ヒ其身ヲ終ヘシム寶曆元年宗廣卒ス

孝孺之ヲ哀悼スルノ甚キ病益加ハル諸

老臣相諭シテ醫ニ京師ニ就カシム孝孺

辭スルヲ得ズ本年ニ至リ勉強京師ニ上

ル留ル丁三月病稍愈ユ秋涼ニ及テ復發

セン丁ヲ恐レ乃チ七月ヲ以テ還ル無幾

復大ニ發シコヽニ至テ終レリ周南文集

三年四月幕府令シテ諸侯高壹萬石ニ數

千俵ヲ儲蓄セシム渡邊年表

四年重就新紙幣ヲ製シ古紙幣ト交換ス

柳並年表

五年八月廿四日大風雨渡邊年表

六年九月幕府吏ヲ長府ニ下シ砂糖製造

法ヲ按問ス是ヨリ先キ幕府長崎平戸ヲ

紀元千四百三年

紀元千四百四年

紀元千四百五年

紀元千四百六年

シテ砂糖ヲ造ラシム皆其ノ製ヲ得スシ

テ止ム既ニシテ本國及ヒ尾張多ク糖ヲ

出ス其品漢製ニ踰ユルヲ以テ乃チ此事

アリ蓋シ我ノ漢人ト密ニ貿易スルヲ疑

フナリ製造者秘訣ヲ盡シテ之ヲ傳授ス

明年四月ニ終ル本郡ノ砂糖ヲ製スルヤ

永富鳳ニ起ル鳳字ハ朝陽獨嘯菴ト號ス

安岡村ノ人ナリ京師ニ遊學シ山脇尚徳

カ塾ニ在リ會長崎ニ長慶ト云フ者製糖

法ヲ清人ニ受クルヲ聞キ、兄某ト同シク
長崎ニ赴キ、長慶ニ師事シ、其秘訣ヲ受ク。
後、兄弟相ヒ分レテ、其ノ法ヲ本郡及ヒ尾
張ニ傳フ。鳳明和三年八月ヲ以テ没ス。十三

三渡邊年表
三家状如

紀元千四百七年

七年四月、厚狹郡船木村火アリ。

紀元千四百九年

九年六月十日、狩野察信没ス。五六 察信ハ

永徳ノ裔ナリ。長府ニ仕ヘ、法橋ニ叙ス。子

ヲ俊信榮洲ト云フ。宗藩ニ徵サレ、氏ヲ長澤

ト改ム。後ニ本氏ニ復セリ。分限帳長
澤家譜 是歳

兩國神社帳ヲ幕府ニ上ル。渡邊年表

紀元千四百廿年

十一年正月、萩弘法寺原ニ調馬場ヲ設ク。

同上 三月六日、重就鑄工中井友恒善ヲ 祿ス。

友恒父ヲ友幸善ト 鑄工河治友恒左兵衛

衛ノ子ナリ。出テ中井氏ヲ襲ク。是ヨリ先

キ本國鑄ニ名アリ。友恒無比ノ良工ニシ

テ。傳世ノ刀法ニ新意ヲ加ヘテ、益長門鑄

ノ聲譽ヲ博セリ。中井家譜 六月、幕府巡見使阿部

内記 叔原七十郎 弓削田源七郎 來ル 故事年表 八月 兩國内ノ

小村帳ヲ改ム 渡邊年表

十二年夏早魃 九月重就萩城内土地

神社ヲ再建シ 元就輝元秀就ノ靈ヲ合祀

入 モト春日神社 護摩堂ニ祀ル 故事年表 渡邊年表

紀元千四百廿三年 後櫻町天皇寶曆十三年五月重就始メテ撫

育方ヲ置キ 綱廣以來蓄積スル所ノ不虞

準備金ヲ増殖セシム 直書付故 十月七日

萩城既火ク 渡邊年表 是歲小村廣狹平均檢地

ヲ施行ス 檢地

紀元千四百廿四年 明和元年十月三日 豊浦郡吉見浦火アリ

百戸 渡邊年表 是歲赤間關伊崎ニ開作ス 上同

紀元千四百廿五年 二年九月十八日 吉田宰判ヲ分割シテ伊

佐宰判ヲ置ク 役人帳 是歲萩城三郷内深野

町ニ調馬場ヲ設ク 渡邊年表

紀元千四百廿六年 五年八月十四日 指月山ニ震ス 上同

六年二月重就小笠原長鑑 次郎 林以成 孫

衛ニ命シ防長古器考ヲ作ラシム 本書序

紀三千四百三年

七年四月重就土地神社ノ社號ヲ願フ仰
德大明神ト宣下アリ社傳是歲硝藥庫ヲ阿
武郡椿郷東分小畑ニ建ツ渡邊年表

山口縣史略卷第五終

明治十五年十月七日板權免許
明治十六年一月出版

著者

山口縣士族

近藤清石

周防國吉敷郡山口
八幡馬場千番地居住

同縣平民

宮川臣吉

周防國吉敷郡山口
中市町六番地居住

出版人

